

## 第 18 回議会報告会 報告書

地域名	大谷地域		
年月日	平成 30 年 10 月 25 日 (木)	会場名	大谷ふれあいセンター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 05 分
参加数	男性 21 人	女性 1 人	合計 22 人
班 長	田路 之雄	司会者	田路 之雄
報告者	田村 和也	書記	西谷 昭徳
班員名	田路 之雄、田村 和也、西谷 昭徳、深澤 巧		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 新文化会館は新築しなければならないのか。耐震補強した場合の費用を議会は聞いているのか。建設事業費も 5 億円増額になっている。</p>	<p>① 耐震診断の結果、大地震で倒壊する危険性があるとされた。耐震補強工事は文化会館で約 20 億円の費用が必要なことが示されている。事業費の増額は用地取得費が増えたことによる。</p>	
意見交換会での質疑	<p>① 新聞報道では養父市議会は当局提案がすべて原案可決となっている。事前調整をしているのではないが。</p> <p>② ローソン裁判で店長の懲戒解雇が撤回されている。新聞報道だけで真実が伝わってこない。</p> <p>③ 八鹿病院の経営は痛みを伴った改革が早急に必要だ。一般質問で指摘されたように市長は積極的な関与をすべきだ。</p> <p>④ 「やぶくる」の運行を市内全域に拡大すべきだ。大谷校区では必要性が低い。</p>	<p>① 平成 29 年度当初予算は修正可決した。以前には副市長人事案件を否決し、委員会で再審査になったこともある。事前調整などはない。</p> <p>② 裁判上は和解になった。市が被告になった裁判は原告側が請求を放棄した。裁判結果については当局より詳しい説明を受け判断したい。</p> <p>③ 医師不足と診療科の偏在に根本的な問題がある。議会も危機感を持って対応したい。病院も理解と支援を得るために住民説明の機会を持つことが必要だ。</p> <p>④ 交通弱者や観光客に対する対策である。利用者が広がるような制度にしていかなければならない。</p>	

	⑤ 避難勧告や指示の発令があるが、地域では現実的にどこが危ないのか、という受け止め方をしている場合がある。	⑤ 土砂災害危険度システムを導入し、本格運用に向けて準備している。災害情報の根拠や対応について地区に応じた細やかな住民説明が必要である。
その他 (提言など)	① 関宮こども園は大雨の時、八木川の水嵩が増えて危険である。隣の小学校に避難する訓練を定期的に行っている。  ② 以前に比べ 議会で子育て支援について取り上げられることが少なくなった。子育て世代と議会の意見交換会を行ってほしい。  ③ 議員が欠員や病欠になっている。定数を少なくしてもよいのではないか。また欠席議員の議員報酬についてどう考えているのか。	① 確認して、当局に伝える。  ② 子育て世代をはじめ、自営業や農業などで頑張っている若い世代との意見も聞いていくことが必要と考えている。  ③ 議席が欠けていることは重く受け止めている。議員報酬減額と次期の定数は検討を始めたい。議長が長期欠席議員に対し自ら一旦辞職し、健康回復後に再起をめざすべき、との忠言をしている。
備考 なし		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

平成 30 年 1 1 月 2 日

報告者 3 班 班長 田路 之雄

